

[平成 20 年度設置]

鳴門教育大学大学院 学校教育研究科
高度学校教育実践専攻（専門職学位課程）
【教職大学院】設置に係る留意事項実施状況報告書

国立大学法人 鳴門教育大学
平成 22 年 5 月 1 日現在

作成担当者

担当部局（課）名 経営企画本部企画総務課

職名・氏名 課長・濱^{ハマ}谷^ヤ貢^{ミツグ}

電話番号 088-687-6243

（夜間） 088-687-6000

F A X 088-687-6040

e-mail kikaku@naruto-u.ac.jp

目 次

1	調査対象大学院の概要等	1
	(1) 設置者	1
	(2) 大学名	1
	(3) 大学院本部の位置	1
	(4) 管理運営組織	1
	(5) 調査対象研究科等の名称、定員、入学者の状況等	2
	(5)－① 調査対象研究科の名称、定員	2
	(5)－②－(a) 調査対象研究科等の入学者の状況(概要)	2
	(5)－③－(a) 調査対象研究科等の在学者の状況(概要)	3
	(5)－②－(b) 調査対象研究科等の入学者の状況(学生の区分毎)	5
	(5)－③－(b) 調査対象研究科等の在学者の状況(学生の区分毎)	8
2	授業科目の概要	11
	(1) 授業科目表	11
	(2) 授業科目数	14
	(3) 未開講科目	14
	(4) 廃止科目	14
	(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」	15
	(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合	15
3	施設・設備の整備状況	16
4－(1)	既設大学等の状況	17
4－(2)	既存の教員養成分野における研究科等の状況	18
5	教員組織の概要	20
	(1) 教員組織・担当科目の状況	20
	(2) 科目別教員数一覧	25
	(3) 専任教員交代の理由	26
	(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」	26
6	留意事項に対する履行状況等	27
7	情報提供に関する事項	33

教職大学院設置に係る留意事項実施状況報告書

1 調査対象大学院の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 鳴門教育大学

(2) 大学名

鳴門教育大学大学院

(3) 大学院の位置

〒772-8502
徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748番地

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長	該当なし		
学長	(タカハシ ハジメ) 高橋 啓 (平成20年4月)	(タナカ ユウゾウ) 田中 雄三 (平成22年4月)	変更理由 任期満了 変更年月日 H22.4.1 (22)
研究科長	(タカハシ ハジメ) 高橋 啓 (平成20年4月)	(タナカ ユウゾウ) 田中 雄三 (平成22年4月)	変更理由 任期満了 変更年月日 H22.4.1 (22)
専攻長	(サコ ヒデカズ) 佐古 秀一 (平成20年4月)	(オノセ マサト) 小野瀬 雅人 (平成22年4月)	変更理由 任期満了 変更年月日 H22.4.1 (22)

(注) 「変更状況」は、変更があった場合のみ記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成21年度に報告済の内容 → (21)

平成22年度に報告する内容 → (22)

・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて見え消し修正するとともに、上記と同様に「備考」に変更理由等を記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科の名称, 定員

調査対象学部等の 名称(学位)	認可時の計画			備 考
	修業年限	入学定員	収容定員	
学校教育研究科 高度学校教育 実践専攻(P) 教職修士(専門職)	2 年	50 人	100 人	[学校・学級経営コース] 学校経営において中核的な役割を担う教員の養成を目的とする。 [学校臨床実践コース] 生徒指導・教育相談に関する専門的知識をもつリーダー教員の養成を目的とする。 [授業実践・カリキュラム開発コース] 授業実践・カリキュラム開発に関する専門的知識をもつリーダー教員の養成を目的とする。 [教員養成特別コース] 学卒者を対象とした実践的対応力・展開力に優れた新入教員の養成を目的とする。
学校・学級経営 コース		10	20	
学校臨床実践 コース		15	30	
授業実践・カリキ ュラム開発コース		15	30	
教員養成特別 コース		10	20	

(注)・「備考」は、各コースが目指す人材育成像を簡潔に記入してください。

(5) -②- (a) 調査対象研究科等の入学者の状況(概要)

(学校・学級経営コース)

区分	対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A	入学定員	10 人	10 人	10 人	1.3 倍	
	志願者数	14	12	13		
	受験者数	14	12	13		
	合格者数	14	12	13		
B	入学者数	14	12	13		
	入学定員超過率 B/A	1.40	1.20	1.30		

(学校臨床実践コース)

区分	対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備 考
A	入学定員	15 人	15 人	15 人	0.75 倍	
	志願者数	11	11	13		
	受験者数	11	11	13		
	合格者数	11	11	12		
B	入学者数	11	11	12		
	入学定員超過率 B/A	0.73	0.73	0.80		

(授業実践・カリキュラム開発コース)

区分 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	15 人	15 人	15 人	0.75 倍	
志願者数	8	15	14		
受験者数	8	15	14		
合格者数	8	14	14		
B 入学者数	8	14	12		
入学定員超過率 B/A	0.53	0.93	0.80		

(教員養成特別コース)

区分 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	10 人	10 人	10 人	0.76 倍	
志願者数	4	15	10		
受験者数	4	13	10		
合格者数	4	13	10		
B 入学者数	3	10	10		
入学定員超過率 B/A	0.30	1.00	1.00		

(注) ・コース毎に記入してください。

・「平均入学定員超過率」は、開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入し、平均入学定員超過率も同様の方法としてください。

(5) -③- (a) 調査対象研究科等の在学者の状況 (概要)

(学校・学級経営コース)

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
1年次	14	12	13	
2年次		14	12	
計	14	26	25	

(学校臨床実践コース)

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次	11	11	12	
2年次		11	11	
計	11	22	23	

(授業実践・カリキュラム開発コース)

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次	8	14	12	
2年次		8	14	
計	8	22	26	

(教員養成特別コース)

学年 \ 対象年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考
1年次	3	10	10	
2年次		2	10	
計	3	12	20	

(注) ・コース毎に記入してください。

(5) -②- (b) 調査対象研究科等の入学者の状況（学生の区分毎）

（学校・学級経営コース：平成22年度入学者）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考	
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		2	1	1	1	5	
		修学休業制度						0	
		勤務継続						0	
		その他						0	
		小 計	0	2	1	1	1	5	
	香川県 教育委員会	派遣制度		3	1			4	
		修学休業制度						0	
		勤務継続						0	
		その他						0	
		小 計	0	3	1	0	0	4	
	愛媛県 教育委員会	派遣制度			1			1	
		修学休業制度						0	
		勤務継続						0	
		その他						0	
		小 計	0	0	1	0	0	1	
	愛知県 教育委員会	派遣制度		1	1			2	
		修学休業制度						0	
		勤務継続						0	
		その他						0	
		小 計	0	1	1	0	0	2	
静岡県 教育委員会	派遣制度				1		1		
	修学休業制度						0		
	勤務継続						0		
	その他						0		
	小 計	0	0	0	1	0	1		
計	派遣制度	0	6	4	2	1	13		
	修学休業制度	0	0	0	0	0	0		
	勤務継続	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		
	合 計	0	6	4	2	1	13		

(学校臨床実践コース：平成22年度入学者)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考		
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		4	2	1		7		
		修学休業制度						0		
		勤務継続						0		
		その他						0		
		小 計	0	4	2	1	0	7		
	香川県 教育委員会	派遣制度			1					1
		修学休業制度								0
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	0	1	0	0	1		
	高知県 教育委員会	派遣制度			2					2
		修学休業制度								0
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	0	2	0	0	2		
	大阪府 教育委員会	派遣制度								0
		修学休業制度			1					1
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	0	1	0	0	1		
三重県 教育委員会	派遣制度			1				1		
	修学休業制度							0		
	勤務継続							0		
	その他							0		
	小 計	0	0	1	0	0	1			
計	派遣制度	0	4	6	1	0		11		
	修学休業制度	0	0	1	0	0		1		
	勤務継続	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	0	0	0	0		0		
	合 計	0	4	7	1	0		12		

(授業実践・カリキュラム開発コース：平成22年度入学者)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考		
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		5	1	2		8		
		修学休業制度						0		
		勤務継続						0		
		その他						0		
		小 計	0	5	1	2	0	8		
	愛媛県 教育委員会	派遣制度			1				1	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	0	1	0	0	0	1	
	大阪府 教育委員会	派遣制度							0	
		修学休業制度		1					1	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	1	0	0	0	0	1	
	静岡県 教育委員会	派遣制度			1				1	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	0	1	0	0	0	1	
鳴門教育大学 附属小学校	派遣制度							0	その他1名：内地研修員	
	修学休業制度							0		
	勤務継続							0		
	その他		1					1		
	小 計	0	1	0	0	0	0	1		
計	派遣制度	0	5	3	2	0		10	その他1名：内地研修員	
	修学休業制度	0	1	0	0	0		1		
	勤務継続	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	1	0	0	0		1		
	合 計	0	7	3	2	0		12		

(教員養成特別コース：平成22年度入学者)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考	
学 部 新 卒 者	教員免許 の有無	有	6	10	5	2	2	10	
		無	4	0	5	8	8	0	
		小 計	10	10	10	10	10	10	

(注) ・ コース毎、年度毎に記入してください。

・ 学部新卒者で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種（幼稚園～特別支援学校）の区分すべてに記入し、小計には実数を記入してください。

・ 現職教員で、自費で通っている学生等がいる場合は、適宜欄を設けて記入してください。

(5) -③- (b) 調査対象研究科等の在学者の状況（学生の区分毎）

（学校・学級経営コース：平成22年度）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考		
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		5	3	3	2	13		
		修学休業制度						0		
		勤務継続						0		
		その他						0		
		小 計	0	5	3	3	2	13		
	香川県 教育委員会	派遣制度		4	1				5	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	4	1	0	0		5	
	愛媛県 教育委員会	派遣制度		1	1				2	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	1	1	0	0		2	
	愛知県 教育委員会	派遣制度		1	1				2	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	1	1	0	0		2	
	静岡県 教育委員会	派遣制度					2		2	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
小 計		0	0	0	2	0		2		
鳴門教育大学 附属特別支援 学校	派遣制度							0	その他1名：内地研修員	
	修学休業制度							0		
	勤務継続							0		
	その他					1		1		
	小 計	0	0	0	0	1		1		
計	派遣制度	0	11	6	5	2		24	その他1名：内地研修員	
	修学休業制度	0	0	0	0	0		0		
	勤務継続	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	0	0	0	1		1		
	合 計	0	11	6	5	3		25		

(学校臨床実践コース：平成22年度)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考		
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		8	4	2		14		
		修学休業制度						0		
		勤務継続						0		
		その他						0		
		小 計	0	8	4	2	0	14		
	香川県 教育委員会	派遣制度		1	2				3	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	1	2	0	0	3		
	高知県 教育委員会	派遣制度			3				3	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	0	3	0	0	3		
	大阪府 教育委員会	派遣制度							0	
		修学休業制度			1				1	
		勤務継続							0	
		その他							0	
		小 計	0	0	1	0	0	1		
	三重県 教育委員会	派遣制度			1				1	
		修学休業制度							0	
		勤務継続							0	
		その他							0	
小 計		0	0	1	0	0	1			
愛知県 教育委員会	派遣制度			1				1		
	修学休業制度							0		
	勤務継続							0		
	その他							0		
	小 計	0	0	1	0	0	1			
計	派遣制度	0	9	11	2	0		22		
	修学休業制度	0	0	1	0	0		1		
	勤務継続	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	0	0	0	0		0		
	合 計	0	9	12	2	0		23		

(授業実践・カリキュラム開発コース：平成22年度)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考		
現 職 教 員	徳島県 教育委員会	派遣制度		10	5	2		17		
		修学休業制度						0		
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	10	5	2	0			17
	香川県 教育委員会	派遣制度		1						1
		修学休業制度								0
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	1	0	0	0			1
	愛媛県 教育委員会	派遣制度			3					3
		修学休業制度								0
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	0	3	0	0			3
	大阪府 教育委員会	派遣制度								0
		修学休業制度		1						1
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	1	0	0	0			1
	静岡県 教育委員会	派遣制度			2					2
		修学休業制度								0
		勤務継続								0
		その他								0
		小 計	0	0	2	0	0			2
	佐賀県 教育委員会	派遣制度			1					1
修学休業制度								0		
勤務継続								0		
その他								0		
小 計		0	0	1	0	0		1		
鳴門教育大学 附属小学校	派遣制度							0		
	修学休業制度							0		
	勤務継続							0		
	その他		1					1		
	小 計	0	1	0	0	0		1		
計	派遣制度	0	11	11	2	0		24		
	修学休業制度	0	1	0	0	0		1		
	勤務継続	0	0	0	0	0		0		
	その他	0	1	0	0	0		1		
	合 計	0	13	11	2	0		26		

(教員養成特別コース：平成22年度)

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高 校	特別支援 学 校	小 計	備 考	
学 部 新 卒 者	教員免許 の有無	有	10	19	10	7	4	19	
		無	9	0	9	12	15	0	
		小 計	19	19	19	19	19		
社 会 人	教員免許 の有無	有	0	1	1	0	0	1	3年以上の教職（講師）経 験を有する。
		無	1	0	0	1	1	0	
		小 計	1	1	1	1	1		

- (注) ・ コース毎、年度毎に記入してください。
 ・ 学部新卒者で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種（幼稚園～特別支援学校）の区分すべてに記入し、小計には実数を記入してください。
 ・ 現職教員で、自費で通っている学生等がいる場合は、適宜欄を設けて記入してください。
 ・ 退学者がいる場合は、「備考」に人数及び具体的理由を記入してください。

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数			授業形態			専任教員配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
別科選択科目	学校臨床実践コース	エンカウンターグループ体験演習	1後	2			○		1						
		学校カウンセリングの実践と課題	1後	2			○			1					
		外部機関との連携に関する実践と課題	1後	2			○				2				カリキュラムを改編したため (22)
		学校メンタルヘルス相談の実践と課題	1後	2			○					1			
		生徒指導・教育相談の実践と課題	1後	2			○						1		
		学校臨床実践事例研究	1後	2			○			1	1	3			担当教官を変更したため (22)
		学校プロジェクト事例演習 (学校臨床実践)	1通	2			○			1	2	1			
		実践課題探求 (学校臨床実践)	2通	4			○			1	2	1			
		学校カウンセリング	1後	2			○					1			カリキュラムを改編したため (22)
		外部機関との連携	1後	2			○					2			
	学校メンタルヘルス相談	1後	2			○					1				
	生徒指導・教育相談の実践と課題	1後	2			○					3				
	教育相談の実践	1後	2			○					3				
	授業実践コース	学習者理解の実践と課題	1後	2			○			1					カリキュラムを改編したため (22)
		学習者支援の実践と課題	1後	2			○				1				
		カリキュラムの構成演習	1後	2			○				1	2			担当教員を変更したため (22)
		教材教具の開発演習	1後	2			○			1	2				
		学習者支援フィールドワーク	1後	2			○			1	2				
		教師熟達フィールドワーク	1後	2			○			1	1				
		学校プロジェクト事例演習 (授業実践・カリキュラム開発)	1通	2			○			3	4	3			
		実践課題探求 (授業実践・カリキュラム開発)	2通	4			○			3	4	3			カリキュラムを改編したため (22)
	開発コース	カリキュラム編成の実践と課題	1後	2			○			1	1				
学習者理解・支援の実践と課題		1後	2			○			1	1					
授業実践フィールドワーク		1後	2			○			1	3					
教科・研究主任の力量形成		1後	2			○			2	1					
専門	学校教育の今日的課題	乳幼児から児童期の発達支援と課題	1前	2			○								カリキュラムを改編したため (22)
		軽度発達障害児への支援と課題	1前	2			○								
		人間の成長と道徳教育	1前	2			○			1	1				
科	現職教員共通	学校アセスメント演習	1通	2			○		6	9					カリキュラムを改編したため (22)
		学校課題演習	2通	4			○		6	9					
科	教員養成特別コース	授業に関わる実践的研究	1前	2			○				1				
		教科外活動に関わる実践的研究	1前	2			○				2				
		生徒指導・進路指導に関わる実践的研究	1前	2			○				1	1			
		授業熟達実地演習	1後	2			○					2			
		学級経営実地演習	1後	2			○					2			
		児童理解実地演習	1後	2			○					2			
		学級経営実践演習	2前	2			○					2			
		実践課題探求 (教員養成特別)	2後	2			○					5			カリキュラムを改編したため (22)
		教科教育実践研究A	1前	2			○					2			
		教科教育実践研究B	1前	2			○					2			
		実践課題研究	1後	2			○					3			
		学校基礎演習Ⅰ (授業実践)	1後	2			○					5	1		
		学校基礎演習Ⅱ (子ども理解・学級経営)	1後	2			○					5	1		
		学校総合演習Ⅰ (学級理解)	2前	2			○					5	1		
学校総合演習Ⅱ (学校理解)	2後	2			○					5	1				

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			授業形態			専任教員配置					備考	
		必修	選択	自由	講義	演習	実験実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学校・学級経営コース														
学校臨床実践コース														
授業実践・カリキュラム開発コース														
課題分析実習	2前		4				○	7 8	7 6	+	+			カリキュラムを改編したため(22)
異校種実習	2前		2				○	7 8	7 6	+	+			
課題解決実習	2後		4				○	7 8	7 6	+	+			
学校課題フィールドワークⅠ	2前		6				○	6	9					
異校種フィールドワーク	2前		2				○	6	9					
学校課題フィールドワークⅡ	2後		6				○	6	9					
教員養成特別コース														
授業熟達実習	1後		2				○		5		+			
学級経営基礎実習	1後		2				○		5		+			
児童理解実習	1後		2				○		5		+			
学級経営実践実習	2前		4				○		5		+			
総合インターンシップⅠ	2後		2				○		5		+			
総合インターンシップⅡ	2前+後		5				○		5					
基礎インターンシップⅠ(子ども理解)	1後		2				○		5		1			カリキュラムを改編したため(22)
基礎インターンシップⅡ(授業実践)	1後		2				○		5		1			
基礎インターンシップⅢ(学級経営)	1後		2				○		5		1			
総合インターンシップⅠ(学級理解と実践)	2前		4				○		5		1			
総合インターンシップⅡ(学校理解と実践)	2通		4				○		5		1			
総合インターンシップⅢ(総合理解と実践)	2後		2				○		5		1			

- (注) ・ 設置認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載いただき、昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しとした部分については、黒字で記載してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後、審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
10	44		54	5 [△5]	47 [3]	[]	52 [△2]	

(注) 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に差し引き数を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・分野別・実習	必修・選択・自由	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

(注) 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・分野別・実習	必修・選択・自由	未開講の理由、代替措置の有無
1	カリキュラム編成の実践と課題	2	1前	共通	必修	<p>養成する人材像に即して、教育内容を充実させ、院生の関心事に対応できるよう、選択の幅を広げ、実習科目等における単位の実質化を図ることを目的とした新たな教育課程等を編成し、平成22年度入学生より適用することとした。</p> <p>これにより、設置認可時の授業科目の多くは、整理・統合、科目名称変更、科目区分の変更等を行った。</p> <p>なお、平成21年度入学生については、左記授業科目のうち、配当年次2年の科目を履修する。</p>
2	学習指導の構成と展開	2	1前	共通	必修	
3	学習評価の実践と課題	2	1前	共通	必修	
4	子どもの内面理解に関する実践と課題	2	1前	共通	必修	
5	学級経営の実践と課題	2	1前	共通	必修	
6	教員の在り方に関する実践と課題	2	1前	共通	必修	
7	乳幼児から児童期の発達支援と課題	2	2前	共通	選択	
8	軽度発達障害児への支援と課題	2	2前	共通	選択	
9	道徳教育の実践と課題	2	2前	共通	選択	
10	家庭・地域との連携構築に関する事例研究	2	1後	専門	選択	
11	学校危機管理に関する事例研究	2	1後	専門	選択	
12	人材育成と校内研修	2	1後	専門	選択	
13	教育行政と学校教育	2	1後	専門	選択	
14	教育政策の動向と課題	2	1後	専門	選択	
15	学校プロジェクト事例演習（学校・学級経営）	2	1通	専門	選択	
16	実践課題探求（学校・学級経営）	4	2通	専門	選択	
17	エンカウンターグループ体験演習	2	1後	専門	選択	
18	学校カウンセリングの実践と課題	2	1後	専門	選択	
19	外部機関との連携に関する実践と課題	2	1後	専門	選択	
20	学校メンタルヘルズ相談の実践と課題	2	1後	専門	選択	

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・分野別・実習	必修・選択・自由	未開講の理由、代替措置の有無
21	生徒指導・教育相談の実際と課題	2	1後	専門	選択	<p>養成する人材像に即して、教育内容を充実させ、院生の関心事に対応できるよう、選択の幅を広げ、実習科目等における単位の実質化を図ることを目的とした新たな教育課程等を編成し、平成22年度入学生より適用することとした。</p> <p>これにより、設置認可時の授業科目の多くは、整理・統合、科目名称変更、科目区分の変更等を行った。</p> <p>なお、平成21年度入学生については、左記授業科目のうち、配当年次2年の科目を履修する。</p>
22	学校プロジェクト事例演習（学校臨床実践）	2	1通	専門	選択	
23	実践課題探求（学校臨床実践）	4	2通	専門	選択	
24	学習者理解の実際と課題	2	1後	専門	選択	
25	学習者支援の実際と課題	2	1後	専門	選択	
26	カリキュラムの構成演習	2	1後	専門	選択	
27	学習者支援フィールドワーク	2	1後	専門	選択	
28	教師熟達フィールドワーク	2	1後	専門	選択	
29	学校プロジェクト事例演習（授業実践・カリキュラム開発）	2	1通	専門	選択	
30	実践課題探求（授業実践・カリキュラム開発）	4	2通	専門	選択	
31	授業に関わる実践的研究	2	1前	専門	選択	
32	教科外活動に関わる実践的研究	2	1前	専門	選択	
33	生徒指導・進路指導に関わる実践的研究	2	1前	専門	選択	
34	授業熟達実地演習	2	1後	専門	選択	
35	学級経営実地演習	2	1後	専門	選択	
36	児童理解実地演習	2	1後	専門	選択	
37	学級経営実践演習	2	2前	専門	選択	
38	実践課題探求（教員養成特別）	2	2後	専門	選択	
39	課題分析実習	4	2前	実習	選択	
40	異校種実習	2	2前	実習	選択	
41	課題解決実習	4	2後	実習	選択	
42	授業熟達実習	2	1後	実習	選択	
43	学級経営基礎実習	2	1後	実習	選択	
44	児童理解実習	2	1後	実習	選択	
45	学級経営実践実習	4	2前	実習	選択	
46	総合インターンシップⅠ	2	2後	実習	選択	
47	総合インターンシップⅡ	5	2通	実習	選択	

(注) 認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成22年度入学生より適用する新たな教育課程は、入学後のオリエンテーション等により説明を行い、周知を図った。また、2年次生については、実習科目及び連動する演習科目等を除いて多くは履修済みであるが、履修希望があった場合を考慮して、授業科目の読替についても、メール等を通して、周知している。

(注) 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0.9$$

(注) 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況

区 分	認可時の計画	変更状況	備 考
【施設】			
講義室	1室(300名収容), 1室(200名収容) 5室(100名収容), 6室(60名収容) 1室(50名収容), 3室(40名収容) 1室(30名収容), 1室(20名収容)		大学全体共用
演習室	63室(20名収容)		大学全体共用
その他教室 (実験実習室)	1室(80名収容), 2室(45名収容) 1室(25名収容), 40室(20名収容)		大学全体共用
(コラボレーション オフィス)	1室		実習等に関する連絡調整
自習室	4室(30名収容) 【学生1人当たりの専有面積1.4㎡】		
図書館	座席数 200席		大学全体共用 平日:8:45~22:00 土・日・祝日:11:00~18:00
情報処理学習施設	1室(51名収容、パソコン51台) 1室(28名収容、パソコン28台) 1室(16名収容、パソコン16台) 1室(6名収容、パソコン6台)		大学全体共用
教員研究室	22室(1名収容、パソコン1台)		
【設備】			
図書	図書324,552冊【外国書52,750冊】 学術雑誌6,272種【外国雑誌1,004種】 データベース5点		大学全体共用
その他設備 ()			

- (注) ・ 複数のキャンパスに分かれている場合は、キャンパス毎に作成してください。
- ・ 学部等との共用関係がある場合は、学部、研究所、他研究科等の名称を「備考」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(22)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しとした部分については、黒字で記載してください。
 - ・ 「その他教室」には、「教育相談室」「ミーティングルーム」等が整備されている場合は、適宜記入してください。
 - ・ 「自習室」「図書館」「パソコン室」については、「備考」に利用可能時間等を記入してください。

4- (1) 既設大学等の状況

大学の名称	鳴門教育大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定 員 超過率	開 設 年 度	所 在 地
学校教育学部 学校教育教員養成 課程	年 4	人 100	年次 一人	人 400	学士 (教育学)	倍 1.15	昭和61年度 平成12年度	徳島県鳴門市鳴 門町高島字中島 748番地

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成22年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。
- ・ 「定員超過率」には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を記入してください。

入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。

なお、学生募集停止中の学部等については、「-」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

4- (2) 既存の教員養成分野における研究科等の状況

【学校教育研究科人間教育専攻 (M)】

(単位:人)

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	6	9	5	
		修学休業制度	1	1	2	
		勤務継続				
		その他				
		小計 (a)	7	10	7	
	学部新卒者 (b)	64	52	63		
	社会人学生 (c)	20	16	21		
	計 (d=a+b+c)	91	78	91		
	入学定員 (e)	90	90	90		
	定員超過率 (d/e)	1.01	0.86	1.01		

【学校教育研究科特別支援教育専攻 (M)】

(単位:人)

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	5	4	3	
		修学休業制度				
		勤務継続				
		その他				
		小計 (a)	5	4	3	
	学部新卒者 (b)	8	5	6		
	社会人学生 (c)	5	4	2		
	計 (d=a+b+c)	18	13	11		
	入学定員 (e)	20	20	20		
	定員超過率 (d/e)	0.90	0.65	0.55		

【学校教育研究科教科・領域教育専攻（M）】

（単位：人）

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	14	14	13	
		修学休業制度	1	2	1	
		勤務継続				
		その他		2		
		小計（a）	15	18	14	
	学部新卒者（b）	58	53	65		
	社会人学生（c）	23	21	31		
	計（d=a+b+c）	96	92	110		
	入学定員（e）	140	140	140		
	定員超過率（d/e）	0.68	0.65	0.78		

（注）・ 学生募集停止中の研究科・専攻等については、「－」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の概要

(1) 教員組織・担当科目の状況

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任等の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	佐古秀一(54)	平成20年4月	学級経営の実践と課題 学校経営の実践と課題 学校組織の分析と開発 学校危機管理に関する事例研究 人材育成と校内研修 学校プロジェクト事例演習(学校・学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	教授	佐古秀一(56)	平成20年4月	学級・学校経営の今日的課題と実践 学校経営の実践と課題 学校の今日的課題とその改善 学校組織の分析と開発 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13.7.(後)9.(集中)90 ②(前)0.7 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
専	教授	岩永定(53)	平成20年4月	学校経営の実践と課題 家庭・地域との連携構築に関する事例研究 教育行政と学校教育 学校プロジェクト事例演習(学校・学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	教授	岩永定(55)	平成20年4月	学校経営の実践と課題 学校の今日的課題とその改善 家庭・地域との連携構築 教育政策と教育行政 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)12.7.(後)9.7.(集中)90 ②(前)1 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
専	教授	村川雅弘(52)	平成20年4月	カリキュラム編成の実際と課題 学校カリキュラムの開発 教師熟達フィールドワーク 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリキュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	教授	村川雅弘(54)	平成20年4月	教科カリキュラムの内容と構成 学校カリキュラムの開発 学校の今日的課題とその改善 カリキュラム編成の実際と課題 教科・研究主任の力量形成 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13.5.(後)9.7.(集中)90 ②(前)2.7.(後)5.34 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
専	教授	小野瀬雅人(50)	平成20年4月	授業実践の分析と改善 学習者理解の実際と課題 教材教具の開発演習 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリキュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	教授	小野瀬雅人(52)	平成20年4月	授業実践の分析と改善 学校の今日的課題とその改善 学習者理解・支援の実際と課題 教材教具の開発演習 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13.(後)9.7.(集中)90 ②(前)2.7.(後)2 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
専	准教授	小坂浩嗣(48)	平成20年4月	生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス 学校カウンセリングの実際と課題 外部機関との連携に関する実際と課題 学校プロジェクト事例演習(学校臨床実践) 実践課題探求(学校臨床実践) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	准教授	小坂浩嗣(50)	平成20年4月	子どもの内面理解 生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス コミュニケーション力育成の実際と課題 学校の今日的課題とその改善 学校カウンセリング 生徒指導・教育相談の実際と課題 学校臨床実践事例研究 教育相談の実際 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13.4.(後)11.4.(集中)90 ②(前)0.3 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
専	准教授	山田芳明(42)	平成20年4月	教科外活動に関わる実践的研究 授業熟達実地演習 実践課題探求(教員養成特別) 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップⅠ 総合インターンシップⅡ	専	准教授	山田芳明(45)	平成20年4月	教育課程の基礎的理解と実践 教科等指導の基礎的理解と実践 教育の今日的課題とその改善 教科教育実践研究A 教科教育実践研究B 学校基礎演習Ⅰ(授業実践) 学校基礎演習Ⅱ(子ども理解・学級経営) 学校総合演習Ⅰ(学級理解) 学校総合演習Ⅱ(学校理解) 基礎インターンシップⅠ(子ども理解) 基礎インターンシップⅡ(授業実践) 基礎インターンシップⅢ(学級経営) 総合インターンシップⅠ(学級理解と実践) 総合インターンシップⅡ(学校理解と実践) 総合インターンシップⅢ(総合理解と実践)	①(前)15.(後)24.(通年)7.5.(集中)60 ②(前)5.9.(後)5.4.(通年)2 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)

専	准教授	川上綾子 (41)	平成20年4月	学習評価の実際と課題 学習者支援の実際と課題 学習者支援フィールドワーク 学校プロジェクト事例演習(授業 実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリ キュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	准教授	川上綾子 (43)	平成20年4月	学習指導と学習評価 学校の今日的課題とその改善 学習者理解・支援の実際と課題 授業実践フィールドワーク 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)12.5,(後)9.5,(集中)90 ②(前)6.7,(後)2 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22)
専	准教授	葛上秀文 (40)	平成20年4月	生徒指導・進路指導に関わる実 践的研究 児童理解実地演習 実践課題探求(教員養成特別) 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップⅠ 総合インターンシップⅡ	専	准教授	葛上秀文 (42)	平成20年4月	教科等指導の基礎的理解と実践 生徒指導・進路相談の基礎的理解 と実践 学級・学校経営の基礎的理解と 実践 教育の今日的課題とその改善 実践課題研究 学校基礎演習Ⅰ(授業実践) 学校基礎演習Ⅱ(子ども理解・学 級経営) 学校総合演習Ⅰ(学級理解) 学校総合演習Ⅱ(学校理解) 基礎インターンシップⅠ(子ども理 解) 基礎インターンシップⅡ(授業実 践) 基礎インターンシップⅢ(学級経 営) 総合インターンシップⅠ(学級理 解と実践) 総合インターンシップⅡ(学校理 解と実践) 総合インターンシップⅢ(総合理 解と実践)	①(前)14,(後)24,(通年)7.5. (集中)60 ②(前)2.3,(後)6.6 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22)
専	准教授	藤原伸彦 (39)	平成20年4月	学級経営実地演習 学級経営実践演習 実践課題探求(教員養成特別) 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップⅠ 総合インターンシップⅡ	専	准教授	藤原伸彦 (41)	平成20年4月	教育課程の基礎的理解と実践 教科等指導の基礎的理解と実践 教育の今日的課題とその改善 実践課題研究 学校基礎演習Ⅰ(授業実践) 学校基礎演習Ⅱ(子ども理解・学 級経営) 学校総合演習Ⅰ(学級理解) 学校総合演習Ⅱ(学校理解) 基礎インターンシップⅠ(子ども理 解) 基礎インターンシップⅡ(授業実 践) 基礎インターンシップⅢ(学級経 営) 総合インターンシップⅠ(学級理 解と実践) 総合インターンシップⅡ(学校理 解と実践) 総合インターンシップⅢ(総合理 解と実践)	①(前)13,(後)24,(通年)7.5. (集中)60 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22)
専	助教	芝山明義 (47)	平成20年4月	人材育成と校内研修 学校プロジェクト事例演習(学校・ 学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	准教授	芝山明義 (49)	平成22年4月	学校の今日的課題とその改善 教員の人材育成と研修 教育政策と教育行政 人間の成長と道徳教育 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13,(後)9.7,(集中)90 ②(前)1 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22) 職位の変更(助教から准教授に昇任) (22)
専・他	教授	山下一夫 (55)	平成20年4月	子どもの内面理解に関する実践 と課題 エンカウンターグループ体験演習 学校臨床実践事例研究 学校プロジェクト事例演習(学校 臨床実践) 実践課題探求(学校臨床実践) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	兼任	教授	山下一夫 (57)	平成22年4月	生徒指導・教育相談に関する ケースカンファレンス コミュニケーション育成の実践 と課題	理事・副学長に就任のため(22) 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22)
専・他	教授	西村公孝 (53)	平成20年4月	学習指導の構成と展開 学習評価の実際と課題 教材教具の開発演習 学校プロジェクト事例演習(授業 実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリ キュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	専	教授	西村公孝 (56)	平成20年4月	教科カリキュラムの内容と構成 学習指導と学習評価 学校の今日的課題とその改善 授業実践フィールドワーク 教科・研究主任の力量形成 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13,(後)9.2,(集中)90 ②(後)0.7 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22) 修士課程兼任を解除(22)
専・専	教授	兼松儀郎 (60)	平成20年4月	道徳教育の実際と課題 教育行政と学校教育 教育政策の動向と課題 学校プロジェクト事例演習(学校・ 学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	教授	兼松儀郎 (62)	平成20年4月	学校の今日的課題とその改善 教員の人材育成と研修 教育政策と教育行政 人間の成長と道徳教育 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13,(後)9.7,(集中)120 ②(後)4 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編したため(22)

実・専	准教授	大西 宏 (63)	平成20年4月	学校経営の実践と課題 家庭・地域との連携構築に関する事例研究 学校危機管理に関する事例研究 学校プロジェクト事例演習(学校・学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	准教授	阪根健二 (55)	平成22年4月	生徒指導・教育相談に関する ケースカンファレンス 学校経営の実践と課題 学校の今日的課題とその改善 家庭・地域との連携構築 学校危機管理の実践と課題 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13、(後)10、(集中)90 ②(前)2、(後)4 大西准教授の定年退官に伴う後任(22)
実・専	准教授	廣瀬隆司 (56)	平成20年4月	カリキュラム編成の実際と課題 学習指導の構成と展開 教材教具の開発演習 教師熟達フィールドワーク 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリキュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	准教授	廣瀬隆司 (58)	平成20年4月	教科カリキュラムに内容と構成 学習指導と学習評価 授業実践の分析と改善 学校の今日的課題とその改善 カリキュラム編成の実際と課題 教材教具の開発演習 授業実践フィールドワーク 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)14、(後)10、2、(集中)90 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
実・専	准教授	木下光二 (49)	平成20年4月	教科外活動に関わる実践的研究 授業熟達実地演習 学級経営実践演習 実践課題探求(教員養成特別) 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップⅠ 総合インターンシップⅡ	実・専	准教授	木下光二 (51)	平成20年4月	教科等指導の基礎的理解と実践 学級・学校経営の基礎的理解と実践 教育の今日的課題とその改善 教科教育実践研究A 教科教育実践研究B 学校基礎演習Ⅰ(授業実践) 学校基礎演習Ⅱ(子ども理解・学級経営) 学校総合演習Ⅰ(学級理解) 学校総合演習Ⅱ(学校理解) 基礎インターンシップⅠ(子ども理解) 基礎インターンシップⅡ(授業実践) 基礎インターンシップⅢ(学級経営) 総合インターンシップⅠ(学級理解と実践) 総合インターンシップⅡ(学校理解と実践) 総合インターンシップⅢ(総合理解と実践)	①(前)15、(後)24、(通年)7、5、 (集中)60 (後)0、6 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
実・専	准教授	豊成 哲 (49)	平成20年4月	教員の在り方に関する実践と課題 授業に関わる実践的研究 学級経営実地演習 児童理解実地演習 実践課題探求(教員養成特別) 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップⅠ 総合インターンシップⅡ	実・専	准教授	豊成 哲 (51)	平成20年4月	教科等指導の基礎的理解と実践 学級・学校経営の基礎的理解と実践 教育の今日的課題とその改善 実践課題研究 学校基礎演習Ⅰ(授業実践) 学校基礎演習Ⅱ(子ども理解・学級経営) 学校総合演習Ⅰ(学級理解) 学校総合演習Ⅱ(学校理解) 基礎インターンシップⅠ(子ども理解) 基礎インターンシップⅡ(授業実践) 基礎インターンシップⅢ(学級経営) 総合インターンシップⅠ(学級理解と実践) 総合インターンシップⅡ(学校理解と実践) 総合インターンシップⅢ(総合理解と実践)	①(前)13、(後)24、(通年)7、5、 (集中)90 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
実・専	准教授	久我直人 (46)	平成20年4月	学級経営の実践と課題 学校組織の分析と開発 学校危機管理に関する事例研究 人材育成と校内研修 学校プロジェクト事例演習(学校・学級経営) 実践課題探求(学校・学級経営) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	准教授	久我直人 (48)	平成20年4月	学級・学校経営の今日的課題と実践 学校の今日的課題とその改善 学校組織の分析と開発 学校危機管理の実践と課題 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13、(後)10、(集中)90 ②(前)0、7 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
実・専	准教授	佐藤 亨 (45)	平成20年4月	子どもの内面理解に関する実践と課題 外部機関との連携に関する実際と課題 学校臨床実践事例研究 学校プロジェクト事例演習(学校臨床実践) 実践課題探求(学校臨床実践) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	准教授	佐藤 亨 (47)	平成20年4月	子どもの内面理解 生徒指導・教育相談に関する ケースカンファレンス コミュニケーション育成の実践と課題 学校の今日的課題とその改善 外部機関との連携 生徒指導・教育相談の実践と課題 学校臨床実践事例研究 教育相談の実践 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワークⅠ 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワークⅡ	①(前)13、4、(後)11、1、(集中)90 ②(前)0、3、(後)1 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)

実・専	講師	末内佳代 (52)	平成20年4月	子どもの内面理解に関する実践と課題 学校メンタルヘルス相談の実践と課題 生徒指導・教育相談の実際と課題 学校臨床実践事例研究 学校プロジェクト事例演習(学校臨床実践) 実践課題探求(学校臨床実践) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専	准教授	末内佳代 (54)	平成22年4月	子どもの内面理解 生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス コミュニケーション育成の実践と課題 学校の今日的課題とその改善 外部機関との連携 学校メンタルヘルス相談 生徒指導・教育相談の実践と課題 学校臨床実践事例研究 教育相談の実践 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワーク I 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワーク II	①(前)13.4.(後)12.1.(集中)90 ②(通年)0.4 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22) 職位の変更(講師から准教授に昇任)(22)
実・専・他	准教授	香西 武 (56)	平成20年4月	授業実践の分析と改善 学習評価の実際と課題 学習者支援フィールドワーク 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリキュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	実・専・他	教授	香西 武 (57)	平成20年7月	授業実践の分析と改善 学習評価の実際と課題 学習者支援フィールドワーク 学校プロジェクト事例演習(授業実践・カリキュラム開発) 実践課題探求(授業実践・カリキュラム開発) 課題分析実習 異校種実習 課題解決実習	職位の変更(准教授から教授に変更)② 平成20年7月教員審査済 修士課程専任となるため専任解除(22)
					実・専	准教授	前田洋一 (52)	平成22年4月	教科カリキュラムの内容と構成 学校カリキュラムの開発 学習指導と学習評価 学校の今日的課題とその改善 教材教具の開発演習 授業実践フィールドワーク 教科・研究主任の力量形成 学校アセスメント演習 学校課題演習 学校課題フィールドワーク I 異校種フィールドワーク 学校課題フィールドワーク II	①(前)14.(後)10 香西教授が平成22年4月より修士課程専任となるための後任(22)
実・み	講師	岩久保和義 (61)	平成20年4月	生徒指導・進路指導に関わる実践的研究 授業熟達実習 学級経営基礎実習 児童理解実習 学級経営実践実習 総合インターンシップ I	実・み	講師	岩久保和義 (63)	平成20年4月	教育課程の基礎的理解と実践 教科等指導の基礎的理解と実践 生徒指導・進路指導の基礎的理解と実践 教育の今日的課題とその改善 学校基礎演習 I(授業実践) 学校基礎演習 II(子ども理解・学級経営) 学校総合演習 I(学級理解) 学校総合演習 II(学校理解) 基礎インターンシップ I(子ども理解) 基礎インターンシップ II(授業実践) 基礎インターンシップ III(学級経営) 総合インターンシップ I(学級理解と実践) 総合インターンシップ II(学校理解と実践) 総合インターンシップ III(総合理解と実践)	①(前)13.5.(後)24 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編したため(22)
兼 担	教授	服部勝憲 (63)	平成20年4月	学校カリキュラムの開発						平成22年3月をもって定年退官(22) 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編し、授業担当を変更し、兼任解除(22)
兼 担	教授	橋本俊顯 (63)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題	兼 担	教授	田中淳一 (51)	平成21年4月	軽度発達障害児への支援と課題	一身上の都合のため平成20年3月退職② 後任の兼任教員決定(21) 担当科目はカリキュラム改編に伴い、専門科目へ移行(22)
兼 担	教授	西園芳信 (60)	平成20年4月	カリキュラムの構成演習						平成22年4月より理事・副学長就任(22) 平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編し、当該担当科目を廃止し、兼任解除(22)
兼 担	教授	八幡ゆかり (56)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専門科目へ移行(22)
兼 担	教授	井上和臣 (56)	平成20年4月	生徒指導・教育相談に関するケースカンファレンス 学校メンタルヘルス相談の実践と課題 生徒指導・教育相談の実際と課題	兼 担	教授	井上和臣 (58)	平成20年4月	学校メンタルヘルス相談	平成22年度入学生からを対象にカリキュラムを改編し、当該担当科目を変更(22)
兼 担	教授	橋川喜美代 (56)	平成20年4月	乳幼児から児童期の発達支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専門科目へ移行(22)

兼担	教授	三宮真智子 (54)	平成20年4月	教員の在り方に関する実践と課題	兼任					一身上の都合のため平成21年3月退職 (大阪大学へ転出)、嘱託講師として当該 科目を担当(21)
兼担	教授	梅野圭史 (53)	平成20年4月	学習指導の構成と展開 教師熟達フィールドワーク						平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を廃止 し、兼任解除(22)
兼担	教授	島田恭仁 (52)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専 門科目へ移行(22)
兼担	教授	浜崎隆司 (51)	平成20年4月	乳幼児から児童期の発達支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専 門科目へ移行(22)
兼担	准教授	津田芳見 (56)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専 門科目へ移行(22)
兼担	准教授	井上とも子 (55)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専 門科目へ移行(22)
兼担	准教授	長島真人 (54)	平成20年4月	授業に関わる実践的研究						平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を変更 し、兼任解除(22)
兼担	准教授	栗飯原良造 (53)	平成20年4月	生徒指導・教育相談に関する ケースカンファレンス 教員の在り方に関する実践と課 題 エンカウンターグループ体験演習 学校カウンセリングの実践と課題	兼任	教授	栗飯原良造 (55)	平成22年4月	コミュニケーション力育成の実践 と課題 学校カウンセリング	職位の変更(准教授から教授に昇任) (22) 平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を変更 (22)
兼担	准教授	石村雅雄 (47)	平成20年4月	教育行政と学校教育 教育政策の動向と課題						平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を変更 し、兼任解除(22)
兼担	准教授	梅津正美 (47)	平成20年4月	授業実践の分析と改善						平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を変更 し、兼任解除(22)
兼担	准教授	大谷博俊 (46)	平成20年4月	軽度発達障害児への支援と課題						担当科目はカリキュラム改編に伴い、専 門科目へ移行(22)
兼担	准教授	梅津正美 (47)	平成20年4月	授業実践の分析と改善						平成22年度入学生からを対象にカリ キュラムを改編し、当該担当科目を変更 し、兼任解除(22)
					兼任	准教授	曾川京子	平成22年4月	生徒指導・教育相談に関する ケースカンファレンス	カリキュラム改編に伴い、担当者を追加 (22)
					兼任	准教授	高原光恵	平成22年4月	軽度発達障害児への支援と課題	カリキュラム改編に伴い、担当者を追加 (22)
					兼任	准教授	佐藤公子	平成22年4月	軽度発達障害児への支援と課題	カリキュラム改編に伴い、担当者を追加 (22)

(2) 科目別教員数一覧

区分	職名	科目分類									合計	備考
		共通科目							分野別 科目	実習科目		
		①領域	②領域	③領域	④領域	⑤領域	⑥領域	小計				
専	教授	(1) <u>2</u>	(1) <u>2</u>	()	(2) 2	()	()	(4) <u>5</u>	(4) <u>5</u>	(4) <u>5</u>	(4) <u>5</u>	カリキュラム改編のため 職位の変更(助教から准教授 に変更) 修士課程兼任解除のため(追 加)
	准教授	() <u>2</u>	(1) <u>4</u>	(1) <u>2</u>	() <u>1</u>	()	()	(2) <u>6</u>	(5) <u>6</u>	(5) <u>6</u>	(5) <u>6</u>	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	
専・他	教授	()	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	()	()	()	(2) <u>0</u>	(2) <u>0</u>	(2) <u>0</u>	(2) <u>0</u>	修士課程兼任解除のため 理事・副学長就任のため カリキュラム改編のため
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
実・専	教授	()	()	()	()	()	(1) <u>0</u>	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1) 1	カリキュラム改編のため 職位の変更(講師から准教授 に変更)
	准教授	(1) <u>2</u>	(1) <u>4</u>	(1) <u>3</u>	(2) 4	(1) <u>8</u>	()	(5) <u>8</u>	(6) <u>8</u>	(6) <u>8</u>	(6) <u>8</u>	
	講師	()	()	(1) <u>0</u>	()	()	()	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
実・専・他	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	修士課程専任となるため
	准教授	()	(1) <u>0</u>	()	()	()	()	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
実・み	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	カリキュラム改編のため
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	(1) 1	(1) 1	(1) 1	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
兼任	教授	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>1</u>	()	(1) 1	(5) <u>0</u>	(9) <u>2</u>	(3) <u>8</u>	()	(10) <u>9</u>	カリキュラム改編のため 理事・副学長就任のため
	准教授	()	(1) <u>0</u>	(1) 1	()	(1) <u>0</u>	(3) <u>0</u>	(5) <u>1</u>	(3) <u>4</u>	()	(7) <u>5</u>	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
兼任	教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	カリキュラム改編のため
	准教授	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	講師	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	()	()	()	
合計	教授	(2) 2	(3) <u>2</u>	(2) <u>1</u>	(2) 2	(1) <u>8</u>	(6) <u>0</u>	(16) <u>8</u>	(10) <u>16</u>	(7) <u>6</u>	(17) <u>15</u>	カリキュラム改編のため 修士課程兼任解除のため 理事・副学長就任のため 修士課程専任となるため 職位の変更(講師から准教授に 変更),(助教から准教授に変 更)
	准教授	(1) <u>4</u>	(4) <u>8</u>	(3) <u>6</u>	(2) <u>5</u>	(2) <u>14</u>	(3) <u>0</u>	(13) <u>15</u>	(15) <u>19</u>	(12) <u>14</u>	(19) <u>19</u>	
	講師	() <u>1</u>	() <u>1</u>	(1) 1	()	() <u>1</u>	()	(1) <u>1</u>	(2) <u>1</u>	(2) <u>1</u>	(2) <u>1</u>	
	助教	()	()	()	()	()	()	()	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	(1) <u>0</u>	

(3) 専任教員交代の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任（就任辞退等含む）等の理由
1	教授	山下 一夫	理事・副学長に就任のため。
2	教授	香西 武	修士課程の専任となったため。
3	准教授	大西 宏	定年退官のため。

(注) ・ 認可時の計画からの専任教員交代の理由について、できるだけ具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

上記の教授2人（番号1, 2）は、専門職大学院設置基準附則第2項の規定により、修士課程の専任教員の数に算入する専任教員であり、平成21年度中に解消することで検討を進めてきた。

山下教授については、当初、修士課程の兼担を解除し、教職大学院の専任教員となる予定であったが、学長・理事の任期満了に伴う選考の結果、平成22年度より理事・副学長に就任することとなった。これにより、平成21年度入学者の実習指導関連について、山下教授の主担当学生においては、副担当教員が主担当になる等、学校臨床実践コース内であらためて担当の変更を行った。

香西教授については、教職大学院の専任教員を解消し、修士課程の専任となった。平成21年度入学者には、授業を担当したが、実習指導関連については香西教授を除く授業実践・カリキュラム開発コース内の教員で割り振りを行った。また、後任の実務家教員（専任）として、前田洋一准教授を平成22年4月1日付けで採用した。

大西准教授は平成22年3月末をもって定年退官となった。平成21年度においては、香西教授と同様に学校・学級経営コース内で調整の上、平成21年度入学者に対する実習指導には就かなかった。また、後任の実務家教員（専任）として、修士課程の専任教員であった阪根健二准教授を平成22年4月1日付けで配置換えとした。

以上のことから、平成21年度入学者については、授業及び実習指導等に支障のないよう配慮するとともに、平成22年度入学者については、入学時のオリエンテーション等で説明を行った。

なお、山下教授の後任については、選考を開始しており、平成23年4月に任用する予定である。

(注) ・ 専任教員交代に係る学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認 可 時 (平成19年12月3日)</p>	<p>設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的、さらに理論と実践を融合して専ら小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び幼稚園の高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を実施するという教職大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>○教育課程・教育方法等の履行状況 設置計画において20年度開設予定とした授業科目は、全て計画どおり開講した。教育方法についても、教職大学院の趣旨をふまえ、実務家教員と研究者教員による共同授業形式を取り入れた授業を計画どおり実施することとしている。なお、それぞれの授業科目において、事例研究、小集団での討議、ロールプレイング、授業観察などを積極的に取り入れることについても、4月に実施したFDの会合（全ての専任教員が出席）においても確認している。⑳</p> <p>学部新卒学生を対象とした「教員養成特別コース」では、1年次後期（平成20年10月）からインターンシップ形式による実習を鳴門市内の連携協力校において実施している。1年次の実習では、授業力、子ども理解力、学級経営力の育成を目指し、2年次では、おおむね1年にわたり、自ら設定した課題に沿って力量の向上を図ることとしている。</p> <p>また、実習と連動するコース別選択科目（演習科目）を設定し、自ら学んだことを省察できる機会を設定している。</p> <p>現職教員を対象とした3コースにおいては、2年次（平成21年4月）から、勤務校において実習を実施している。本実習は、勤務校の教育課題を共有・分析し、解決を図る一連の活動を行い、リーダー教員として必要な資質や力量形成を目指すものであり、教育課程上、共通科目、コース別選択科目の履修を通し、学校を組織的に改善するために必要な理論的枠組みを修得し、それを実習の中で活かすよう設計している。</p>	

		<p>また、1年次の段階から、勤務校が抱える課題を総合的に分析する「学校アセスメントシート」を作成することにより、勤務校の現状を把握し、課題を明確化するとともに、構想発表会等を通して、実習課題及び実習計画を精緻化した上で、実習に臨んでいる。</p> <p>なお、実習に関する課題設定、実践、評価に関しては、実習校と綿密に連携して行うこととしており、さらに2年間の学修成果について、実習校及び教育委員会関係者も交えて総合的に評価するよう制度化している。(21)</p> <p>○指導体制 設置計画どおり実務家教員(10人)と研究者教員(12人)が専任教員として配置され、理論と実践の融合を図った授業が展開できる体制が整備された。教職大学院における教育課程の特色でもある実習に関しても、設置計画では理論と実践の両面からの指導を行うため、実務家教員と研究者教員の両者が共同して大学院生を指導することが可能な体制となっている。(20)</p> <p>院生一人ひとりの学習プロセスを把握するため、「リフレクションシート(学習ポートフォリオ)」の提出を求め、それにより、課題を抱える学生を把握し、コースの専任教員を中心に支援するシステムを構築している。</p> <p>さらに、本学教職大学院における到達目標(3領域11観点)を明示し、院生が自ら学んだ成果の軌跡をたどれるようにするため、平成21年度入学生から到達状況の自己評価、自己評価後の課題設定を行うとともに、上記のリフレクションシートを含めた「学びのポートフォリオ」を作成・記録し、院生が教職大学院での学習に主体的に目標を持って取り組むよう指導している。(21)</p>	
--	--	---	--

		<p>○教育研究活動充実のための組織体制</p> <p>専攻の運営については、設置計画を確実に履行するため、すでに設置認可後から、月1回の専任予定教員会議を開催し、教職大学院における教育課程、教育方法等において教員の共通理解を図りながら準備を進めてきた。</p> <p>4月以降は、専攻会議（専任教員によって構成）を開催し（定例会は月1回）、専攻の運営及び設置計画に基づく教育・研究の進展状況等を確認することとしている。さらに専攻内に「カリキュラム開発チーム」、「連携協力校運営チーム」、「自己点検・評価委員会」、「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設置し、教育課程、教育方法等の評価・改善を行い、教育研究の一層の向上に努める。なお、「カリキュラム開発チーム」、「連携協力校運営チーム」については、専攻教員だけでなく教育委員会関係者並びに連携協力校関係者を構成員として加え、本専攻における教育研究等に対するデマンドサイドからの評価等を行うようにしている。</p> <p>また、教職大学院の設置に伴い、本学に「教職大学院コラボレーションオフィス」を設置し、教育委員会・学校との連絡・調整を行うとともに、連携協力校における研修・研究等の支援に関する企画業務を行う体制を整えた。⑳</p> <p>○ファカルティ・ディベロップメントの取り組み</p> <p>本専攻では、全ての授業科目において大学院生からの授業評価を実施することとし、教員に周知を図っている。また、「ファカルティ・ディベロップメント委員会」では、講義用、実習用等、授業種別ごとの評価項目の作成に着手している。</p> <p>また、上記の「カリキュラム開発チーム」、「連携協力校運営チーム」の活動等によって、教育委員会・連携協力校と連携を深め、本専攻の教育活動の充実・改善に努める。</p>	
--	--	---	--

	<p>学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、1年間に登録できる単位数について、単位の実質化の観点から再検討し改善すること。</p>	<p>学生による授業評価や教育委員会等からの意見聴取の他、教育委員会からの参加を得て授業公開・授業検討会を実施（平成20年11月29日）し、「理論と実践の融合」を実現するための教育内容及び教育方法等の在り方について検討を行った。</p> <p>また、兵庫教育大学、上越教育大学と本学の3教育大学による「教職大学院の実習等のFDシステム共同開発」事業が「専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム」（平成20～21年度）に採択され、現在、教職大学院のカリキュラムの中核を担う「実習」及び実習と連動する「課題研究」等の点検・評価、ティーム・ティーチング等教育方法の点検・評価、実務家教員の研修プログラムの開発を行っている。</p> <p>(21)</p> <p>高度学校教育実践専攻では、学校現場が直面している諸課題の構造的・総合的な理解にたつて幅広く指導性を発揮できる教員の養成を目指した教育課程を編成している。</p> <p>各年次における配当単位数は、学校・学級経営コース、学校臨床実践コース、授業実践・カリキュラム開発コースにおいては、1年次：34単位、2年次：18単位であり、教員養成特別コースにおいては、1年次32単位、2年次20単位である。</p> <p>大学院生が本専攻のそれぞれの授業科目の学習に積極的に取り組むことを図り、かつ必修科目以外の科目履修を一定程度可能にするために、本専攻で履修できる年間の単位数の上限を38単位と定めた。</p> <p>なお、大学院生が履修すべき科目等の履修指導については、教務課教育支援チームの担当者と履修等の相談を担当する教員を配置し、大学院生の修学ニーズに応じた履修指導を行っている。⑳</p>	
--	--	--	--

<p>設置計画履行状況 調査時 (平成21年1月28日)</p>	<p>教職大学院の設置の趣旨が活かされるよう、入学者の質に留意しつつ、入学者の適切な確保に努めること。 また、コースごとの適切な定員充足に努めること。 特に、現職教員の受入れについては、教育委員会の人材養成ニーズと大学が養成する人材像について教育委員会と十分な共通認識を図ること。</p>	<p>○定員充足の状況と入学者の確保 平成21年度の入学者状況は、現職教員対象の3コースにおいて定員40人に対して37人が入学した。学部新卒学生対象のコースでは定員10人を充足した。専攻全体としては定員50人に対して、50人を合格者としたが、そのうち47人が入学した。 平成20年度入学者状況の反省を踏まえ、現職教員対象の3コースについては、各県の教育委員会をより多く訪問し、教職大学院の特色等を説明するとともに、現職教員の派遣依頼活動を積極的に展開した。学部新卒学生対象のコースについても、本学学部学生への説明の他、私立大学等へも広報する等、専任教員全員による定員充足のための取り組みを行った。その結果、前年度に比べて応募者の増加につながったが、専攻全体の定員充足には至らなかった。(21)</p> <p>○教職大学院で養成する人材像の明確化と教育委員会との共有 次年度の定員確保に向け、特に現職教員の受入れについては、先述の本学教職大学院における教育・学習の到達目標を明示するとともに、これに関して教育委員会等との意見交換も行いながら、教職大学院で育成する人材像の具体化と共有を推進している。あわせて実習を含めた2年間の学修の流れ等を資料として整備し、教育委員会訪問時に提示し、教職大学院の学習内容についてより具体的な説明を行っている。これらによって本学教職大学院の、教育内容、指導体制、養成する人材像について、これまで以上に具体的な理解を得られるようになった。なお、各学校に対する広報活動についても、教職大学院に関する情報提供を積極的に行う。(21)</p>	
--	--	--	--

<p>設置計画履行状況 調査時 (平成22年2月5日)</p>	<p>教職大学院の設置の趣旨が活かされるよう、入学者の質に留意しつつ、入学者の適切な確保に努めること。また、コースごとの適切な定員充足に努めること。</p>	<p>○定員充足の状況 平成22年度の入学者状況は、現職教員対象の3コースにおいて定員40人に対して37人が入学し、学部新卒生対象のコースでは定員10人を充足した。専攻全体としては定員50人に対して、志願者数50人、合格者数49人であり、合格者のうち47人が入学した。 平成21年度は、平成22年度入学定員確保に向け、教育委員会への派遣依頼活動をより積極的に行うとともに、平成21年度入学者状況と比較すると、入学者数は同数であるが、志願者数で3人減、合格者数で1人減となった。 平成21年度は、定員確保に向け、各県教育委員会への派遣依頼活動をより積極的に行うとともに、現職教員の派遣に伴う諸問題について、徳島県教育委員会及び徳島県下の市町村教育委員会と懇談を行った。また、ニュースレターを派遣元の教育委員会及び所管下の各学校へ配付する等、広報に努めた。学卒学生については、近畿・中国・四国・九州地区の私立大学への訪問を行った。 これらの取り組みの結果、学卒生対象の教員養成特別コースにおいては、定員を充足したが、現職教員対象の3コースのうち、2コースにおいて定員を充足するには至らなかった。(22)</p> <p>○平成22年度からの定員確保に向けた取り組み 現職教員の確保に向けては、各教育委員会の理解は得られているものの、学校現場の教員の理解を深めるため、新たに専任教員による「地域担当教員制」を設けて、県下の学校や地域に担当教員が向いて、教職大学院制度及び研修の現状等を説明することとしている。(22)</p>	
---	--	--	--

7 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成 20 年 4 月 21 日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)
- d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.naruto-u.ac.jp/01_soumu/0102_kikaku/p-secchikeikaku.htm)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。